

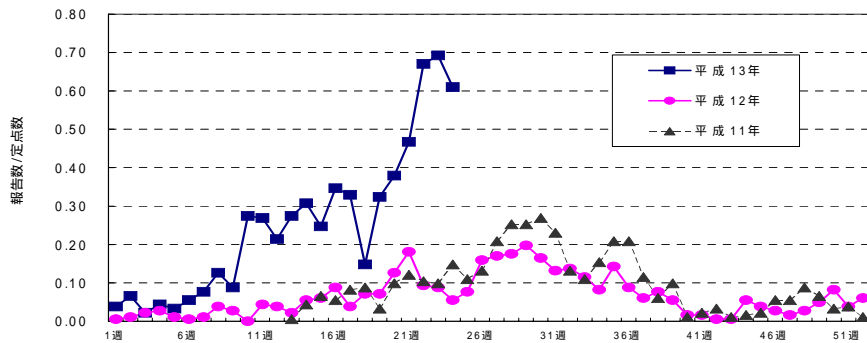
愛知県感染症情報

平成 13 年第 24 週（6 月第 2 週）

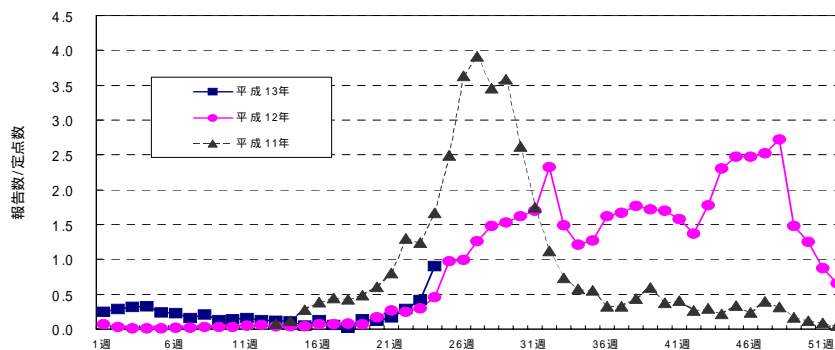
（コメント）

全国的に見ても、咽頭結膜熱の報告数が多い状況が続いていますので注意してください。手足口病、ヘルパンギーナは流行中です。

麻疹は、報告数が減少してきました。



咽頭結膜熱（名古屋市を含む。平成 11 年は、13 週（4 月 1 日～）から）



手足口病（名古屋市を含む。平成 11 年は、13 週（4 月 1 日～）から）

（定点の先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 手足口病が増えてきました。水痘まだ多いです。
（一宮市 あさのこどもクリニック）
- ・ 病原性大腸菌（O18 1歳女、O116 5歳男）
（尾西市 城後小児科）
- ・ 手足口病多い。リンゴ病（伝染性紅斑）も続発中。アデノ様発熱続く。
水痘、ムンプスまだ引き続いて多い。
（岩倉市 なかよしこどもクリニック）

- ・ 咽頭結膜熱様の高熱が持続する感染症が流行しています。
水痘、手足口病の流行も続いています。
ヘルパンギーナ 2 名ありました。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ EB ウィルス感染症 8 歳男
(春日町 丹羽医院)
- 尾張東部地区
 - ・ 咽頭結膜熱は少なくなりましたが高熱 4 ~ 5 日続く疾患はみられます。サルモネラ肺炎 O4 5 歳女。ヘルパンギーナが増えました。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
 - ・ ヘルパンギーナが今週から認められるようになりました。水痘も増加傾向です。流行性耳下腺炎は、減少傾向です。伝染性紅斑小流行。アデノウイルス感染症で高熱が持続する症例あります(入院例あり)。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
 - ・ 咽頭結膜熱の患者が散見されます。
(長久手町 スズムラ眼科医院)
 - ・ 病原性大腸菌 O6 感染症 36 歳(単身発症)
(豊明市 豊明団地診療所)
 - ・ 今週は年少児の咽頭結膜熱が多くみられました。
(春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ ヘルパンギ - ナ小流行。ムンプス・水痘あり。麻疹減少。
(小牧市 小牧市民病院)
- 西三河地区
 - ・ カンピロバクター腸炎 2 歳男
(豊田市 星ヶ丘田中こどもクリニック)
 - ・ 0 歳男、5 歳男(兄弟)ロタウイルス
(岡崎市 深田小児科)
 - ・ マイコプラズマ肺炎 8 歳女
無菌性髄膜炎(先週も 1 例あり) 6 歳女
病原性大腸菌 O1 VT (-) でカンピロバクター (+) 4 歳男
(岡崎市 花田こどもクリニック)
 - ・ 病原性大腸菌 O1 (+) VT1・2 (-) 3 歳女
(岡崎市 にいのみ小児科)

- ・ 溶連菌感染症が目立ちます。
ヘルパンギーナが出始めたようすです。
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ アデノウイルスと思われる咽頭炎が増加(アデノチェックは行っていません)
(西尾市 やすい小児科)
- 東三河地区
 - ・ 保育園で、りんご病(伝染性紅斑)が流行中です。
(豊橋市 大谷小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者3名

- ・ 豊田市保健所から報告の14歳女。6/3発病、6/4初診、6/9診定。
菌型は、0157 VT2(+)
- ・ 豊田市保健所から報告の15歳男。6/11発病、6/12初診、6/15診定。
菌型は、0157 VT1・2(+)
- ・ 西尾保健所から報告の6歳女。6/6発病、6/6初診、6/11診定。
菌型は、0157 VT1・2(+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

報告はありません。

第22週(5月28日~6月3日)の4類感染症の全国状況

麻疹は過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数がかなり多い状態が続いており、都道府県別では熊本県1.8、宮崎県1.5、沖縄県1.4などの報告がある。流行性耳下腺炎は、最近10年間の当該週と比較して最大の定点当たり報告数となっており、福井県7.3、佐賀県4.2、福岡県4.2などの報告がある。伝染性紅斑は定点当たり報告数がかなり多くなっており、埼玉県2.2、山梨県1.6、宮城県1.5などの報告がある。咽頭結膜熱は、最近10年間の当該週と比較して最大の定点当たり報告数が2000年第41週から現在まで続いており、都道府県別では滋賀県1.3、愛知県0.7、山口県0.5などの報告がある。今までは殆どオフシーズンであったが、今後夏の本格的なシーズンでの発生の増加が懸念される。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2 0 0 1 年 5 月 4 日号 (7 6 卷 1 8 号)

メジナ虫 (飲料水で経口感染する寄生虫症。前号参照。幼虫は中間宿主のミジンコに寄生、汚染された生水を飲んで感染、腸管から全身に広がって下腿皮下に移動、皮膚を破って水中に産卵、共通の水利用で集落に伝播。清潔な飲料水供給、地区衛生教育が重要)。本報告は 2 0 0 0 年の世界における状況のまとめ。現在常在しているのはアフリカ 14 カ国だけとなった。ケニアでは 9 4 年、カメル - ンとセネガルでは 9 7 年で輸入例を除き消失。世界最多の発生国はス - ダン、次いでガ - ナとナイジェリア。2 0 0 0 年の統計で 75,223 例。9 9 年から 22% 減。ス - ダン以外では再報告例が多い。W H O のメジナ虫根絶計画委員会が本年 3 月 2 6 日から開催され常存地各国の状況に応じた対策が討論された (国別の詳細な状況報告が掲載されている)。

インフルエンザ (0 1 年 4 月) : フランス ; B 型発生中。日本 ; 減少。B 型。

4 月 2 7 日 - 5 月 3 日届出疾患 : ペスト。ブラジル。

2 0 0 1 年 5 月 1 1 日号 (7 6 卷 1 9 号)

髄膜炎菌髄膜炎血清型 W 135 : 2 0 0 0 年、それまで稀であった W 135 型の髄膜炎菌が世界的に大発生した (注 : 流行の主体は髄膜炎菌常存地であるサハラ砂漠南縁諸国からメッカ巡礼者によりアラビアに持ち込まれ、巡礼者がメッカから欧米諸国在住のイスラム教徒に伝播した例。本邦では大発生はみられていない)。以下、W H O の勧告である。同居家族などの接触者に発病予防化学療法をすすめる (リファンピシンを採用している国が多い)。0 2 年の巡礼シ - ズンにそなえてサウジアラビア政府は入国者に髄膜炎菌ワクチン (血清型 A、C、Y、W 135 を含む) 接種を義務づけている。各国における髄膜炎菌の検査精度向上を W H O が支持する。

天然痘 : 9 9 年 5 月、W H O の専門家集団会議で現在世界で天然痘ウイルスを扱っている研究所で天然痘ウイルスを破棄するのを 0 2 年まで延期することを決め、昨年 1 2 月と本年 2 月には新しく W H O 諮問委員会が発足、天然痘ウイルス研究に関する勧告 (0 2 年の天然痘ウイルス破棄を目標に各研究者の研究成果、研究方針の解析)。これまで分離された天然痘ウイルスの整理と保管。各ウイルスの D N A 解析。他のポックスウイルスとの比較研究。血清診断、抗ウイルス剤の研究。動物モデル研究。

国際検疫病 (ペスト、コレラ、黄熱) の 0 1 年 5 月における常存地一覧表。

インフルエンザ (0 1 年 5 月) : ブラジル (A 型、一部 B 型)、香港 (A H 1 N 1)。

学校帰りの小学生達が雨の止んだ道路に出来た水溜まりで長靴で遊んでいます。筆者らの子供の頃は道路にも蛙がいたり虫がいたりしましたが今は何もいないようです。ところで、いつも貴重な情報を有難うございます。6月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：市内各地区で水痘、ムンプス（髄膜炎あり）、伝染性紅斑の小規模流行の頻発が相変わらずみられています。梅雨に入ってヘルパンギナや手足口病が増加し、4月から始まっている咽頭結膜熱の発生も続いています（第一日赤有吉先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。高熱を伴う咽頭炎（要入院例目立つ）、急性扁桃炎が各地区で発生中です（第一日赤有吉先生、国立病院伊藤先生、城北病院渡辺先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。マイコプラズマ感染症を含む急性肺炎、気管支炎も各地区で発生しています（第一日赤有吉先生、国立・伊藤先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。その他、感染性腸炎（千種区今枝先生、三菱・岩間先生（病原性大腸菌O1、カンピロバクタ-腸炎）、労災・山田先生、大同・水野先生；ロタウイルス腸炎）、が発生中で相変わらず麻疹の小規模流行が各地区で流行していて成人麻疹もみられ、ほとんどがワクチン未接種児ですが、接種歴をもつ成人で1罹患例ありとの報告もいただきました。肺炎などの合併症で要入院例が目立っています（第一日赤有吉先生、国立・伊藤先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。

2. 尾張地区：瀬戸陶生病院山口先生からは麻疹（入院例あり）、ムンプス、水痘が散発中でアデノウイルス感染症の発熱例（入院例あり）が目立つとのお手紙でした。

3. 三河地区：安城更生病院小川先生からは水痘、ウイルス性胃腸炎がやや目立ち肺炎・気管支炎が多く、豊橋市宮澤先生からはマイコプラズマ肺炎、ムンプス、水痘、咽頭結膜熱などのアデノウイルス感染症が目立つとのお手紙でした。有難うございました。